

# いっぱん質問

新井田 昭 男 議員



## 問 老朽化した町福祉バス 更新の考えはあるか

答 元気が出る交付金を活用して新年度に購入 —— 町長

**質問** 現在の町福祉バスは平成6年に導入し、19年の歳月が経過しました。その間、各地域の団体や学校活動など、多くの町民の移動手段として利用してきましたが、老朽化しているという認識の中でなぜ早く更新できなかったのでしょうか。

先の町政懇談会でもこの問題を問われ、管理する行政が、「財政問題から交付金での購入を考えている」などと、児童・生徒や町民の安全を軽視した答弁であり、まさに町民の生命、財産を守るべき行政の発言とは思えないと強く感じました。

このたび、議員からの指摘で第6次木古内の振興計画に追加で登録しましたが、どのような認識を持っているのでしょうか。

現状認識を踏まえ、早急に町民の安全対策を講じることが最優先

だと思いますが、町長の考えを尋ねます。

**大森町長** 町福祉バスの年間の稼働実績は約120日程度で、教育委員会や学校関係で約70日、社会福祉協議会や町内会関係で30〜40日程度、さらには町や町議会など、幅広く利用していただいています。

町福祉バスは、信頼できる整備工場で、1年及び3か月の法定点検を行い安全の確保に努めているほか、運転手による走行前の点検をはじめとする各種点検を励行し、日々安全に利用していただけるように努めていますので、議員が指摘するような心配はないと思っています。

また、「運行中における車両のトラブルで、利用者に迷惑をかけたという事例はない」と報告を受けていますので、今後についても、

同様の安全対策をしつかりと継続していきたいと考えています。

一方で、車両は19年を経過しているため、修理費も年々高額になってきています。町福祉バスが多くの方々に利用していただいていることを考えると、新車を購入し、より安全



町民にとって移動手段の足となっている町福祉バス。走行距離は、33万kmを超えています

で快適に利用していただくことも必要であり、第6次振興計画に登録し早期に更新できるように努めていきます。

なお、新車の購入時期は新年度に向けて準備しており、「元気が出る交付金」を利用したいと考えています。